

解 説 (I)

原子力百科事典 “ATOMICA” について

(財) 高度情報科学技術研究機構

中村 知夫

高度情報科学技術研究機構(旧原子力データセンター)では、科学技術庁からの委託をうけて、パソコン通信で利用できる原子力 PA 用のデータベース「原子力百科事典 “ATOMICA”」の運用、整備を行っています。このご紹介をいたします。

原子力に関する情報は、極めて広範囲かつ膨大で、一般国民には理解しにくい面があります。原子力利用に対する疑問や漠然とした不安を出来るだけ少なくするためには、原子力に関する知識や情報を正確に国民に提供してその利用に関する理解を促進していく必要があります。このため、理解に有用な情報を分かり易く整理し、系統的な検索の行えるデータベースシステムとして整備して、パソコン通信によって簡便・迅速に提供出来るサービス運用を行うのが本事業の目的です。

“ATOMICA”のデータの整備および検索システムの構築は、科学技術庁の委託事業として、日本原子力研究所が、平成元年から平成5年度にかけて、放射線医学総合研究所、動力炉・核燃料開発事業団、財団法人原子力安全協会、社団法人日本原子力産業会議、財団法人原子力文化振興財団を中心に関係原子力機関の協力を得て行ったものです。元々は、原子力関連機関 PA 講師および原子力行政関係者等が利用できる情報を提供する、すなわち、原子力分野およびその周辺の業務に従事し、その情報普及のため国民との接点におり原子力の素養的知識は有するが原子力の特定項目については必ずしも精通していない人達を利用者対象層として整備が進められました。

これに対し、折角整備されるデータであり出来るだけ多くの原子力に関心を持つ国民に利用出来るようにとの提言が出され、一般の人を直接の対象とすること、そのため運用管理を円滑かつ効率的に行えるよう公益法人に引き継ぐことになりました。システムの整備、データの作成で本システム構築に協力していた本財団が担当することになり、平成6年10月に原研から業務を引き継いで後、当面のデータ修正・更新や検索システムの手直しの上、本年3月22日一般公開運用を開始しました。

本データベースは、原子力の広い範囲をカバーするために、下記の 16 の分野（大項目）に大別されています。

1. エネルギー
2. 電力
3. 原子力開発に関する国の方針・計画等
4. 原子力発電の技術と現状
5. 核燃料サイクルの技術と現状
6. 原子炉廃止措置
7. 原子力安全規則
8. 運転管理データ
9. 原子力安全研究
10. 新しい原子力利用
11. 放射線
12. 国際協力
13. 世論
14. 海外の動向
15. Q & A
16. 補充編

それぞれの大項目はさらに系統的に中項目、小項目と分類され、この小項目が複数の単位（オブジェクト）から構成される四階層の構造となっています。各オブジェクトは、それぞれタイトル、サマリー、キーワード、本体説明文、図表、関連オブジェクト名、関連用語、参考文献から構成されており、平均 3,000 字程度の文字情報と平均 3 枚程度の図表情報によって、各タイトルについて技術あるいは政策、計画等について、まとまりのある情報が得られます。現在は、総計 1,328 件のオブジェクトが登録されています。今後さらに拡充してゆく予定です。

オブジェクトデータはエンジニアリング・ワークステーション (EWS) に収納されていて、文書データは商用通信ネットワーク (Tri-P) を介して通信機能を持つパソコンあるいはワープロに、図表等の図形データは、ファックスで配送出来るようになっています。知りたい情報を多角的、迅速かつ簡単な操作で検索できるようにするため、縦型検索機能として分類ガイド検索、文字列入力検索、構成番号指定検索が、また、最初の対象項目から関連項目を検索する横型検索機能として関連タイトル検索、キーワード検索が準備されています。

ご利用については、所定の利用申込書を当財団の原子力 PA データベースセンターに

送って頂ければ折り返し ID 番号を付した登録票、タイトル一覧表、検索操作手引きをお送りします。そうすれば後は、全国に 94 あるうちの最寄りのアクセスポイント (AP) につなぐだけでご利用になれます。登録料、利用料は不要ですが、AP までの電話代は利用者負担となります。利用申込書は下記にご請求下さい

(財) 高度情報科学技術研究機構 原子力 PA データセンター

茨城県那珂郡東海村白方字白根 2 の 4

(TEL: 029-282-3833、FAX: 029-283-3811)

また、登録前でもゲスト機能で“ATOMICA”の概要を知ることが出来ます。

本データベースは、まだ発足したばかりでいろいろと改善すべき課題を抱えています。分野別のバランス、データの定期的更新、キーワード機能充実、検索システム改良、用語辞書整備等々です。また、現在、別個に FAX で送られているイメージ情報をパソコン画面にも出せるようにすること、インターネットの IP アドレスに接続することも検討中です。

データベースは利用者の反応、さなわち、使われ方によってその性格が固まり、内容が充実するものと考えます。その意味で積極的なご利用とご批判を頂ければ幸いです。

現在の“ATOMICA”では、核データが関連している箇所はあまり多くありません。どちらかといえば実用面に重点が置かれているからです。しかし、原子力の基本が一般の人になじみのない核反応、核データと密接に結びついていることを考えると、原子力の本質的理解のためには、もっと核反応レベルの事象の性格を非専門家に理解して貰う努力が必要です。特に、次世代を担う若年層に情緒的先入観なしに、事実としての核反応レベル事象とそれからもたらされる結果を分かり易く説明するのがこれからの課題で、皆様のお知恵を是非ともお借りしたいと思います。よろしくお願いいたします。